

WAKUWAKU通信

Oct.2018
Vol.3



特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク



WAKUWAKU最近の出来事



「こいのぼりなう」(5月20日)

国立新美術館にて開催された展覧会を鑑賞しました。当日は、こいのぼりが制作できるワークショップにも参加しました。

主催: 東京池袋西ロータリークラブ

小、中学生の皆さんための お金のスタートトレーニング☆

2018年7月31日(火)

★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★

対象者: 15:30~17:00 小学生&保護者対象

17:30~19:30 中学生対象

会場: WAKUWAKU勉強会(池袋第二区民集会室)

費用: 無料 持ち物: 筆記用具

主催: NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

協力: 株式会社東京スクーリング

「講座内容」

①お金のひみつを知ろう ②お金をかせぐ、働く

③お金の使い方・貯め方 ④トラブルをさけるなど

「お金のスタートトレーニング」(7月31日)
お金についての知識を深めるためのイベントを開催しました。

協力: (株)東京スター銀行・(株)シーアールイー



「ウォータースライダー」(8月1日)

池袋本町プレーパークにて毎年恒例のウォータースライダーです。

協力: 東京豊島ライオンズクラブ・(有)松本製麺所
・豊昭学園ボランティア部



「飛び出せ都会!!自然いっぱいの山に行こう」(8月21日~23日)

毎年恒例の大鹿村での合宿です。今年も自然豊かな環境のなか様々なことが体験できました。 協力: 東京神宮ロータリークラブ・アサヒ飲料(株)



「飯能河原でバーベキュー」(8月26日)

埼玉県にある飯能河原でバーベキューを開催しました。

協力: (株)KFケミカル・(株)サッポロ製麺



「遊佐カレーのタベ」(9月13日)

椎名町こども食堂で山形県の遊佐町より、食材一式をいただきました。

協力: CS(キャリースマイル)友の会

「産前産後HV養成講座」を行いました(ホームスタート・わくわく報告)

2018年8月、ホームスタート・わくわくでは「産前産後ホームビジター養成講座」を開催し、11人のホームビジターさんが妊婦さんのもとに訪問可能になりました。

どうして妊婦さんを訪問する必要があるのか、妊娠は病気ではないのだから、と疑問に思われるかもしれません。

しかし、妊娠するといろいろな困難や不安が生まれます。特に初めての妊娠は分からぬ事だらけで、より不安が強くなります。

国立成育医療研究センター(東京都)の研究チームが2018年9月に発表した研究では、妊娠中から産後1年未満に死亡した妊産婦357人(死産を含む)で死因を調べたところ、自殺が102人(妊婦3人、産婦99人)でトップでした。

このような残念なことをなくすために、妊娠期から産後までホームスタートを通じて地域住民や専門家、施設とつなげ独立させないことが地域の子育て力を向上させると思います。

講座では妊娠期にどんな体調の変化が訪れるのか、身近な支援制度はどうなっているのか、を助産師さんや行政の保健師さんから学び、訪問のロールプレイを通してどんなことに注意して訪問したり傾聴したりすれば良いのかを学びます。

こうして誕生した11人のホームビジターさんたちに話を聞いてもらいたい妊婦さんがいらしたら、是非ご紹介ください。真心で傾聴し、できる限りお力になりたいと思います。



今年の夏に主催した TOSHIMAパントリーピックアップPROJECTの取り組みについて

昨年までは夏・冬・春休みに「おなかいっぱいプロジェクト」と称し、ひとり親家庭100家庭に段ボールいっぱいの食材を配達してきましたが今年は「パントリーピックアップ」にチャレンジしました。これは、ひとり親世帯のママやパパに豊島区内の会場に直接来てもらい、^{*}フードバンクの食材や、洋服・日用品などを、ご自身で自由に選び、無料でお持ち帰り頂くという取り組みです。

会場にはお子さんが遊べるキッズスペース、お母さん同士が情報交換できるカフェスペースも作り、食糧支援と同時に交流の場を創りました。5月の開催時は60名、7、8月中に計5回開催し130名の方が参加しました。

この取り組みはWAKUWAKUだけでは決してできません。食材を提供してくださるセカンドハーベストジャパン(フードバンク)、会場を提供して下さる目白聖公会・ワーカーズコープ・スーパーササガミ、および豊島区民社会福祉協議会・豊島区との連携で実現しました。WAKUWAKUの強みである地域ネットワークをつくり、支援の輪を広げていきたいと考えています。

「参加したママ・パパの声」

- 前回、今回と私は仕事で会場には息子が伺いました。子ども達には年齢的に恥ずかしい等はあるとは思いますが、前回優しく、とてもよくしていただいたようで今回も行ってもいいよと言ってくれました。我が家は子ども達も大きくなり、そのようなことが出来るようになりました。行った先の場内で、交流会があるのはとてもいいと思います。今回のような支援が1番必要な時期、家庭、人に届くといいなと思います。ありがとうございました。(パパの声)
- 初めて参加させていただきました。節約をするところは食費が一番です。ですので、食材をいただけるのは大変助かります。可能であれば毎月あるといいなと思います。ありがとうございました。(ママの声)
- 支援後、母子で具合が悪くなったとき、すぐに食べられる支援品をたくさんいただきいたため、とても助かりました。また、普段買わない(買えない)お品もたくさんあり、食卓が豊かになりありがたいと思いました。(ママの声)
- 今回初めて食材を頂き大変ありがとうございました。色々な物を沢山下さり、選ぶことが出来たり、とてもとても嬉しかったです。また、今回の様な事に参加させてもらえるのでしょうか?今後もあればいいと願っております。(ママの声)



*フードバンクとは、「食料銀行」を意味する社会福祉活動です。まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や人に届ける活動のことを言います。セカンドハーベスト・ジャパンは、企業・個人から預かった食材等を必要な人に届けるフードバンク活動を実施しています。

共催:株式会社サカガミ、セカンドハーベスト・ジャパン、一般財団法人ナチュラルファーム協会、目白聖公会、NPO法人ワーカーズコープ、豊島区民社会福祉協議会 後援:豊島区 協力:東京神宮ロータリークラブ・東京六本木ロータリークラブ・(株)無印良品

要町あさやけ子ども食堂が24時間テレビに取り上げられて、 「昭和レトロな食堂」にリフォームされました!!



8月25日(土)26日(日)に放送されている「24時間テレビ41」では、ヒロミが東京・要町の子ども食堂をリフォームする「ヒロミの24時間リフォーム～亡き妻の夢!子ども食堂を大改造～」。いろいろな場所にガタの来ていた築50年家屋が、木をあしらった「昭和レトロ」な食堂に変身しました。

依頼主は、山田和夫さん(70)。5年前から自宅を「要町子ども食堂」として開放し、月2回・温かい料理を1食100円で提供していました。自宅にある巨大なオーブンは、10年前に亡くなった奥様の和子さんが遺したもの。奥様は池袋の路上生活者にパンを配っていて、亡くなる3週間前に「あなたもパンを焼いて下さい」とレシピを遺していました。しかしこの巨大なオーブンは料理中は200度以上にもなり、部屋はクーラーが効かず皆汗だく。また築50年の建物の至るところにもガタが来ていました。「実家でリラックスできるような『昭和っぽい雰囲気』が良い」という山田さんの要望を聞いたヒロミは、店を「昭和レトロ」なデザインにすることを決定。伝統的な和風建築に、欧米の家具や雑貨を取り入れたおしゃれなデザインに仕上げました。

引用:日本テレビ【24時間テレビ41】ヒロミの24時間生リフォーム完了! 滝沢らと築50年の家屋を変身させる 2018.08.26 公開

<https://www.ntv.co.jp/24h/articles/60wr3lczeil1xod8k.html>

寄附・賛助会員でのご支援よろしくお願ひします。

「ゆうちょ銀行からお振込の場合」

【口座番号】00170-5-728808 【加入者名】豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「ゆうちょ銀行以外からお振込の場合」

【店名】○一八(読み ゼロイチハチ) 【店番】018

【預金種目】普通預金 【口座番号】5639629

ご寄附・賛助会員でお振込みされた方は、メーリングリストに加入致します。

ご希望のかたは、QRコードまたは、<http://toshimawakuwaku.com/kihuansanzo>よりご確認ください。



クレジットカードでのご寄附、賛助会員費のお支払いも可能です。今回ののご寄附から月単位での継続したものまでご利用いただくことが可能です。詳細は、WAKUWAKUのサイトまたは、上記QRコードよりご確認ください。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。